




平成30年度メールモニターアンケートの意見反映状況

平成30年度のアンケート実施結果を受けて、業務の改善や施策への反映につながったことや、今後の課題として検討していることについてまとめました。

担当課	アンケートテーマ	意見反映状況
<p>生活環境部 地域づくり推進課 (政策企画部 広報戦略課)</p> <p>※令和元年度より、メールモニター制度は広報戦略課に所管が変わりました。</p>	 <p>メールモニター制度について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メールモニター制度をより多くの市民に知っていただくための広報の仕方について、ホームページのトップ画面にスライドバナー表示したらどうかという意見を採用し、スライドバナー表示を実施しました。 ・また、学校などでのチラシを配布という意見についても採用し、学校に配布しました。その他にもたくさん広報に関するアイデアをいただきましたので、採用できるものについて今後検討していきたいと思えます。 ・特典プレゼントについては、「増やしてほしい」「ノートや鉛筆のような簡単な参加賞があればいい」という意見を採用し、6月以降のアンケートから毎回、回答された人に抽選でプレゼントを贈呈しました。また、年1回の地域の特産品プレゼントも好評だったので、今後の参考にしたいと思います。 ・メールモニターの感想として「市政に対する理解や関心が深まった」という意見が多かった一方で、「アンケート結果がどのように市政に反映されたか知りたい」という意見も多くいただきました。また、モニター登録者の増加に伴いアンケート回答率が減少するという問題も生じたため、今後の課題としては、より多くの人に継続的に参加していただけるような工夫や、モニターの意見を施策に反映した結果について広く周知し、多くの人に市政に関心を持っていただけるよう、広聴と広報の一体的な取組みが必要だと考えています。
<p>総務部 危機管理課</p>	<p>家庭での防災・減災について</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全世帯に配布したハザードマップなどにより、ご自宅やお勤め（通学）先の近くにある危険な場所については、多くの方が把握されていることがわかりました。 ・情報の入手方法についての設問では、多くの方が複数の入手手段を確保されていることがわかりました。防災情報の入手経路を複数確保しておくことは、停電時等に備え、より確実に情報を入手できる効果もあります。今後もよりいっそう、複数の情報入手手段の確保について必要性を積極的に訴え、啓発していく必要があると感じました。

<p>産業部 観光振興課</p>	<p>東広島市の日本酒について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにより、西条が日本の三大銘醸地の一つであることの認知度が高い一方、東広島市内に10社の酒造会社があることや、西条の酒造施設群が「日本の20世紀遺産20選」に選定されていることについては、認知度が低いことがわかりました。今後は、市内の日本酒関連の情報を整理し、わかりやすく伝えるよう努めていきます。 ・アンケートの内容を参考に、平成30年度から開催した日本酒講座、「東広島市立日本酒大学」の講義内容を検討しました。 ・酒蔵通りを観光した際の感想を参考に、観光客の受入体制の整備を進めていきます。 
<p>生活環境部 地域づくり推進課</p>	<p>もったいない！ 食品ロス</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・東広島市で取り組んでいる食べ切り運動「20・20運動」の認知度が低いことから、まずはできるだけ多くの人に「20・20運動」を知ってもらい、この取り組みが広まるような広報活動を検討しています。 ・事業者の取り組みを期待している消費者が多いこともわかりました。事業者に対しても働きかけ、食品ロス対策に取り組む事業者を紹介するなど、消費者の皆さんが持っている、「食品ロスをなくそう」という意識を生かせる仕組みづくりを行っていきます。
<p>生活環境部 地域づくり推進課</p>	<p>知っていますか？ 地域センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、地域センターの存在は8割以上の方に知られているものの、利用したことがない方が約4割となり、その理由として、活動内容がわかりにくいことがあげられました。効果的な広報のために、昨年度、地域センター職員向けに広報研修を実施しました。今年度も引き続き研修を実施していく予定です。 ・地域センターに希望することとして、無料 Wi-Fi が使用できることという意見がありました。これに対して、3月に約半数の地域センターに無料 Wi-Fi を導入しました。また、残りの地域センターについては今年度7月頃に導入予定です。

<p>健康福祉部 地域包括 ケア推進課</p>	<p>地域包括ケアシステム について</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での支え合いの仕組みづくりや、活動への支援が必要であるとの意見があったことから、今年度出前講座において「支えあいの地域づくり（助け合い体験ゲーム）」のメニューを新たに設けました。 ・その他、いただいた意見を参考に、地域包括ケアシステムの内容や地域包括支援センターの役割についての認知度の向上を目指した情報発信、イベントの早期周知を図ります。
<p>学校教育部 教育総務課</p>	<p>目指せ 「日本一の教育都市 東広島」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東広島市教育振興基本計画を改定する際に、今回のアンケートを意識し、基本理念や政策方針を策定しました。 ・教育委員会の施策や事業の周知が十分にできていないことがわかったため、より理解していただけるよう、今後の広報活動の見直しを検討します。 
<p>生活環境部 人権男女共同 参画課</p>	<p>人権フェスティバルに ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権フェスティバルを始め、人権に関する事業や施設についての認知度が低かったため、より効果的な方法を検討し、周知を図ります。 ・「人権について考えることがなかった」、「普段意識することが少ない」などの意見をいただいております、より多くの方に常に身近で大切なものだと感じ、行動してもらえるよう、さらなる啓発活動に努めます。
<p>生涯学習部 文化課</p>	<p>知っていますか？ 新美術館の開館！！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新美術館の開館時期について約6割の方が知っているという結果でしたが、まだ、周知は足りていないということも確認できました。今年度秋に建物が竣工し、開館に向けた準備が本格化するため、これまで以上に新美術館を身近に感じられる情報を届ける方法を検討します。 ・展覧会については現美術館で実施している「現代絵本作家原画展」や「東広島市美展」の継続を望む意見が多く、また新美術館に対しては全国規模の有名な作品展示や、子供や学生等の若者が楽しめる展示、また、地元ゆかりの作家を取り上げた展示を希望する意見をいただきました。 新美術館で行う事業については、ご意見を参考にしながら、新美術館が目標としている「育成・創造型美術館」としてふさわしい事業内容を検討していきます。

<p>消防局 警防課</p>	<p>応急手当と災害出動 について</p> 	<p>【AED】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法の重要性と、AED の使用方法等について学ぶ応急手当講習会の認知度は、徐々に増えてはいるものの、応急手当講習が月 1 回定期開催されていることを「知らない」と回答された方は 64% で、半数以上であることが分かりました。各種講習会の開催については、HP、広報紙、FM 東広島、JR 西条駅デジタルサイネージ等、複数の方法で広報を行っていますが、浸透していないという課題も把握できました。 応急手当講習受講者や AED 提供協力施設を増やすために、出前講座やイベントでお知らせするなど、関心を持っていただけよう見直しを検討していきます。 <p>【災害出動】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国版救急受診アプリ「Q助」を「知っている」と回答された方は約 1 割と認知度が低いこと、知っている方の中でダウンロードしている方は約 3 割と、わずかであることが分かりました。この結果を受け、「Q助」をはじめ、患者の搬送事業について浸透が図れるよう、広報の見直しを行い、救急車の適正利用につなげていきたいと思ひます。
<p>消防局 東広島消防署</p>	<p>防災センターの利用に ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災センターについて、認知度、利用度が低いということが分かり、全体のリニューアルの検討の中で、より利用したくなる施設になるよう、取り組みたいと思ひます。また、その中で、防災センターを認知していただくための周知方法についても併せて検討していきます。 昨年度末に、広島大学との共同研究で開発した「避難体験 VR 『土砂災害』」の紹介ページを市ホームページに作成し、それを通じて設置場所である防災センターのアピールを試みましました。今後もホームページ更新頻度を上げるなど、情報発信を活性化させます。
<p>政策企画部 広報戦略課</p>	<p>「東広島市 くらしのアプリ」に ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> アプリを知っている人の割合は、47.2% と半数を切る結果でした。広報紙等で継続して周知を図ります。 また、いただいたアイデアの中から、「各地域の細かな情報」や「災害時の避難行動、支援等の情報」の追加について実施を検討します。

